

[477] 中国の墓参日はいつ？ 続・気になる日本語（9）

(33) 誰にとっての「黄金」週間？

“黄金周”は日本語のゴールデンウィークをそのまま訳したものに違いない。なぜなら **golden week** は和製英語であって、英語にはこのような言い方は存在しないからである。

日本語のゴールデンウィークは「四月の終わりから五月の初めにかけての休日の多い一週間」というのが一般的な解釈で、わたくしもこの解釈に異を立てるつもりはないが、この一週間を黄金のように貴重な週であると受け止めたのは、実は休暇を享受する側のわたくしたちではなく、さまざまな娯楽を提供し享受させる興行者の側であったことは意外に知られていない。

このことはいつか書いた。昭和 30 年代、まだ映画が娯楽の中心であった頃、ラッパの異名で知られていた大映の永田雅一あたりが、黄金の稼ぎ時とばかりにラッパを吹き鳴らしたのが始まりのようだ。

(34) 忘れられた(?) シルバーウィーク

こちらの主唱者は誰であったかは知らないが、悪乗りして(?) シルバーウィークなるものを唱えて柳の下のどじょうを狙ったりもしたが、定着することなく忘れ去られようとしている。そうでもないのかな? 手元の三省堂『新明解国語辞典』第七版(2012年1月刊)には「十一月三日の文化の日を中心とする、休暇・催し物の多い一週間」の通称、とある。

ゴールデンウィークの主唱者は映画会社であったが、バレンタインデーとやらのバカ騒ぎの主謀者はデパートあたりか。“恋人節”と称して中国にもぼつぼつ伝染しはじめたようだ。ただし、中国では女性から男性にチョコレートなどをプレゼントするのではなく、男性から女性に花束などを贈るのが主流とか。この方がまだしも健全かな?

(35) ハロウィン “万圣节前夜”

バカ騒ぎと言えば、わが国ではここ数年とみに騒ぎが大きくなりはじめたハロウィンとやら。中国ではどうですかと聞いてみたが、こちらはまだ猖獗^{しょうけつ}を極めるところまでは進んでいないようだ。『人民日報』の海外版を読んでいたら、イギリス留学中の学生たちが10月31日の万聖節の前夜を楽しく過ごしたという記事が、例の大きなカボチャをくりぬいてローソクをともした写真とともに載っていた。

ハロウィンは11月1日の「諸聖人の祝日」の前夜をいうらしいが、中国語は今のところ“万圣节的
前夜”で、ハロウィンを直訳した語はまだないようだ。

この原稿を書いているきょう11月11日は、棒ばかりが並んでいるので独身の日“光棍節”とか。ネットで「爆買い」する独身男性の様子を映したテレビの画面に“全球11狂欢节”とあった。

(36) “扫墓” “春游” “踏青”

中国の伝統的な祝祭日のうち、わが国では沖縄の一部の地方を除いてあまり重視されていないものに“清明节”がある。清明は二十四節気の一つで、春分後15日目であるから太陽暦の四月五日前後に当たる。清明節の大きな行事は一族そろっての墓参り“扫墓”である。わが国の墓参りが春の彼岸、すなわち春分の日の前に行われるのとは異なる。

清明は春の好季節であるので、学校行事として春のピクニック“春游”が行なわれたり、家族や友人と野遊び“踏青”に出かけたりもする。北宋の張拙端の『清明上河図』はこの日の首都汴京^{べんけい}(開封)のにぎわいを描いたものとして知られる。

2016/11/18